

JAXA の道浦執行役が資料 27-2(センチネルアジア共同プロジェクトチーム会合)を 11 分余で説明した後、14 分弱の質疑応答があった。(センチネルアジアは、最初のフィージビリティ・スタディの段階を終了し、現在はデモンストレーションの段階にあり、其のプロジェクトチームの第 3 回会合の報告。)(現在デモンストレーションの段階にあり、ALOS-2 や WINDS を活用して、各種大規模災害に於ける有効性を確認して、一定の成果を出している。青江委員長代理から、其の次の段階を控え、JAXA は発展途上国を支援する為の団体ではないので、然るべく次の段階に移行する為の準備を考える様にとの強い助言があった。)

青江委員長代理:有難う御座いました。ご質問等御座いますれば、どうぞ。

井上:一寸良く知らないので教えて頂きたいと思うんですけど、此れ、「データ解析ノード」って仰ったり、或いは「データ配信速度の改善」行なったりって、斯う云うところはあの、夫々の国が、あの、協力...自分の処で或る種のお金を用意して動いている様なもんなんでしょうか。それとも何か、全体に何か、どう云う事で動いてるんでしょうか。

JAXA 道浦:先ず、エエト、「データ解析ノード」は夫々の国が、機関が解析する為の装置を整えてですネ、行なっていると云う事で御座います。それから、あの一、WINDS「きずな」のデータ配信速度の向上のための装置については地上局は JAXA が提供致しますが、地上局のエエト、あの、設置をしてもデータを蓄える為のデータサーバを用意しなきゃ駄目で、サ

【議事(2)】センチネルアジア・共同プロジェクトチーム会合の開催結果について

ーバを夫々の国の帰還が用意すると云う事になっております。

青江委員長代理:地上局、WINDS の地上局は幾つ位有るもんなんですか。

JAXA 道浦:ええ、あの、4 頁に書いております様に、現在...災害...センチネルアジア用には 7 機関¹が決まっております。バングラデッシュ、ベトナム、スリランカ、と云うのが今動いております、ア、あの、実際上進めております。其の他ですネ、エエト、ネパール、インドネシア、フィジー、モンゴルって云うのが 4 カ国です。

青江委員長代理:夫々の国に、一つ可搬型の地上局を...エエト JAXA が...エエト、調達をして向うへ持って行って、エエト、まあ、受信が出来る状態にして居る。

JAXA 道浦:そうですネ、はい。

青江委員長代理:で、ガメンクメル(?)サーバだけは、夫々の国が用意をしないと。

JAXA 道浦:そうです、そうです。其れと、後の配信ですネ。はい。

青江委員長代理:エエト、可搬型地上局って云うのは、全部で...数は幾つ?

JAXA 道浦:あの、今、7 つフィックスしてると云う。

(暫く発言が無かった)

青江委員長代理:後は御座いますか? ...それじゃあ一点私から。

¹ 説明資料に拠れば、フィリピン、タイが最初に取り組んでいるので、9 カ国 9 機関の様である。また、最後の 4 カ国は、「今後、整備予定」と示されている。

あの、此の、例えばスリランカの洪水の対応事例ってありますネ、エエトその一、10頁ですネエ。此の5月18日にエエト、受領して、ポッと見ろよって言われてネ、それで翌日の朝にはですネ、モトメルタクサンイル(?)訳ですネエ。で、其れの、エエト、届けた其の回線は WINDS を使ったんですか？

JAXA 道浦: 此れはあの、エエト、先ずスリランカにはあの、WINDS の地上局置いてませんので、インターネットのあの一、インターネット回線で送ったと。

青江委員長代理: と云う事はインターネット回線でも時間さえ掛ければですネエ、此のエエト、洪水の地図がありますネエ、此れがこう、出来る程度の...普通のインターネット回線でチャンとあの一、斯う...用を果たすんだと思っとけば良いんですか。

JAXA 道浦: エエト、時間が先ず、あの一...(会場の傍聴者と相談)...生データの時にはエエト、WIND を使うと数十分だけでも、斯う云うの普通のインターネット回線だと何時間から十何時間ですネ。十時間とか其の位掛る場合があると。

青江委員長代理: そうするとですネエ、エエト、センチなるアジアがチャンと実効ある仕組みとして定着して行くと云う為には、まあ、提供する側の衛星ですネエ、衛星がまあ、此れは多々益々のヤツですネエ、多くなればなる程って云う事が一つ。それから...ま、人材養成も要るんでしょうネ、先方の。あの一...から一...付加価値のある様にして上げると云うのは、此れは JAXA だけじゃなくて、受け手側の国もそれぞれまあ、努力をして居る訳ですネエ。

JAXA 道浦: はい、そうです、そうです、はい。

青江委員長代理: 此れ進行しつつある訳ですネエ。から、もう一つはいざ撮ったアレを、非常に素早く...その一...其れを使う相手国機関に送ってあげる為の通信回線と云うものをキチンと整備される様にと云う事が必要な訳ですネ。此れから先。

JAXA 道浦: そうなんです、はい。

青江委員長代理: で、特にお金が掛りそうだと云うのは、一番最後の処じゃあないですか。

JAXA 道浦: そうです、はい。

青江委員長代理: 其処の処は、これから先、どう云う風に、ホントに其処を、エエト、現実化して行く事が出来るんだろうかと。と言いますのはネ、エエト、何かって言いますと、今、7カ国に WINDS の受信機を、まあ、置いて、実験て云う事でやって居る訳ですネ。JAXA は所謂エイドの機関ではないんですヨネ。ですから、7カ国位、実験て云う事で以て斯うやって、そして多分、其れが実験が進行しても、其の実証実験が住めば、其れは試験が済んだんだからと云う事で、先方の国にまあ、プレゼントするみたいな事もありますヨネ。其れは其れで良いと思うんですけれども、其れは、そう云う様な事と云うのは自ずから限界がありますヨネ。あの一、アジアの国全体が、其の国に一個あってもしょうがないですヨネエ。もっと沢山要るでしょうネ。と云う事で、其れをどう、通信回線をホントに、エエト、相手国側で整備をされて行くのかと云うのは、ま、JAXA の手を離れた問題として、ありますヨネ。其れがホ

ントにきちんと動かないと、折角の此れが働かない事になりますヨネ。其処がどう云う風になるんだらうかと云うのが一つと、それからもう一つは、WINDSはあくまでもですネ、技術実証...技術試験衛星ですヨネエ。アレ、定常的じゃあ...此れから先まあ、何時まで寿命があるかなんですけどネ。あの一、其れが無くってもと云う状況の事も考えないと、此の仕組みは動かなくなりますヨネエ。普通のインターネット回線で、普通の商業通信衛星を使って行くのかどうなのかネ。其の辺はどう云う風に見とけば宜しいんですか。

JAXA 道浦:今、言われた処がですネ、正しく今後の課題で、エエト、此の会議でも議論された処です。それで、あの一、WINDSは設計寿命が5年でですネ、既に2年半ですかネ、もう過ぎてる訳ですヨネ。それで、彼等も矢張りサーバも用意するので、矢張りWINDSのフォローオンなり、WINDSを出来るだけ長く使いたいと云う要望がある。で、もう一つ、我々だけではなくって、例えばインドは通信衛星持ってんですネ。それでインドは通信衛星を此処に、斯う云うものに提供しても良いと云う事を、今回の会合で言って来たので、ただ、インドの衛星のカバレッジ範囲と云うのは限定されてて、此の、我々が使っているセンチネル・アジア全部を必ずしもカバー出来ないと云う事なんです。それで、すると、その一、もう一つの手としてはあの、商業衛星、例えばタイなんかも商業衛星持ってますし、日本の商業衛星も全部はカバーしてませんけども、東南アジアの処をカバーしてる商業衛星御座いますので、その、商業衛星を使う事に依って、その、或る程度

のお金は必要なんですけども、あの一、今後、そう云う事をやると云う手もありますネと云う議論は、今回の会合でされております。ただ、あの一、エー、此のステップ 2 と云うのはあくまでデモンストレーションですので、其のステップ 2 の間は一応 WINDS の設計寿命がある間何で、其の次のステップ 3 なり、ステップ 2 フォローオンをどうするかと云うのですネ、今、議論してる処で、正しく今、エー、言われた処が非常にクリティカルポイントとして、皆さん認識しております。

青江委員長代理:分かりました。ただ、もう少し言うんですネエ、その一、それこそ日本の、まあ...JAXA の任務なのかどうなのかっての良く分かんないんですけど、一種まあ、WINDS の技術を発展させた衛星って云うものをどう考えるかと云う事、まあ、此れはポリシー・ボードがちゃんと考えなきゃいかん事なのかも知れませんがですネ、其れが中々...どう言いましょうか、斯う.....実用ベースに移らない²んであれば、其のWINDS 受信局をですネ、7 つから何とかと増やす様な事は

² 衛星通信インターネット回線が維持され続けるとして、其れを一国で支えメンバー国全体で利用すると云う道はなさそうだから、国境を気にしないで済む企業が衛星を運用し、各国各機関から使用料を徴収する事になろう。其の企業に日本政府が支援すれば、アジア各国は其れこそ日本政府の下心だと思うだろう。其れが嫌で躊躇していると、欧米企業が通信事業に参入しかねないが、それでは何の為にセンチネルアジアを支えて来たのか分からない。技術実証が終わったら畳むのも険しい道である。

もう止めて、もう止めて、その一、普通の商業衛星を使った仕組みへ.....を前提にした議論を早めにした方が良い³んじゃないかと...恐らく、まあ、繰り返し言う様ですけど、研究開発法人でありエイドの機関じゃない JAXA の仕事の範囲と云うものを良く見極めて、実効が上がる様にしないといかんんじゃないかと云う風に思うんですけどもネ。...まあ、単なる感想ですけども。

JAXA 道浦: 其処は、正しく、非常に大きな、これからの論点⁴だと云う風に、我々は認識しております。

³ 此の辺りの戦略を立てる時に、米国のやり方が参考にならないのが困った点である。米国は軍隊を世界展開しているので、(勿論商人も世界中に広がっている。) ニュース放送、天気予報、GPS ナビゲーションなどを世界展開している。軍人向けのサービスなので、政府が其れを仕切って何の問題もない。其の際受信機だけ用意すれば米国民間人も外国人もサービスを受けられる。日本には宇宙活動を世界展開する必然性が無いので、そう簡単にはいかない。商業活動に政府が支援すれば、WTO に何か言われるかも知れない。NAFTA の様にアジア圏に自由貿易圏を作れば問題解決するかも知れないが、其れはセンチネルアジアのサービスを民営化するより難しい事である。民営化流行りの日本ではあるが、国内で閉じる問題ではないので、一層難しい点が多いだろう。余程先の事を読んだ上で始めたのだろうと考えて、先の心配をしない様にして来たが、其れ程読むでは居なかった様である。大変心配である。

⁴ 「事前にもっと検討しておくべきだった。」と反省して頂いた方が安心出来る。

【議事(2)】センチネルアジア・共同プロジェクトチーム会合の開催結果について

青江委員長代理: まあ、何としても、APRSAF、センチネル・アジア、それから SAFE って言いましたっけ、あの事業、ああ云った事業って云うのは、ま、これから先益々重要になる訳ですから、あの一、実効が上がる様に、現業として実効が上がる様にと云う事で、あの一、是非...進めて頂きたいナァと云う風に思いますが。...何か御座いますか。宜しゅう御座いますか。はい。じゃあ。

(以下、マイクを通さないで極めて聞き取り難い)

森尾: 今の問題は、他の部分でも同じですネ。

青江委員長代理: 例えば ALOS-2 ?

森尾: ALOS2 の後継機で写すってのは、既に研究開発じゃあなくて、実用衛星が斯う出て来ると、定常的に其れをサポートするゼンタイノウンシュツ(?) は、其れを運用するムニャムニャ...

青江委員長代理: それよりも、供与(?), 一寸違うと思うんですネ。今、ムニャムニャ、ALOS-2 も、其れを利用する国内利用体制ですネ、(此処からマイクを通した) あの、其の問題と、まあ一種途上国に、其のまあ、APRSAF で議論しとる様な事を、どう具体的に定着せしめて行くのかって云うのと、一寸違うかも知れません⁵ネ。...はい、どうも有難う御座いました。(次の議題に進んだ)

⁵ 技術試験衛星と云うのはスーパー301 適用除外にする為の施策。APRSAF 等々は東南アジアとの外交方針の問題。両者は明らかに違う!! 同じなのは衛星の呼称だけである。